

# GINZA SIX

GINZA SIX

No. 05-050-2017作成  
新築  
物販／飲食／事務所

発注者	銀座六丁目地区市街地再開発組合	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO <sub>2</sub> 技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術／FB
設計・監理	銀座六丁目地区市街地再開発計画設計JV	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
施工	鹿島建設	I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		

## 銀座の街に開かれた商業施設をめざして



外観写真



鳥瞰写真



1. あづま通りの廃道(道路機能保持)
2. 三原通りへの付替(幅員12m→20m)

### 銀座の新しい人の流れ

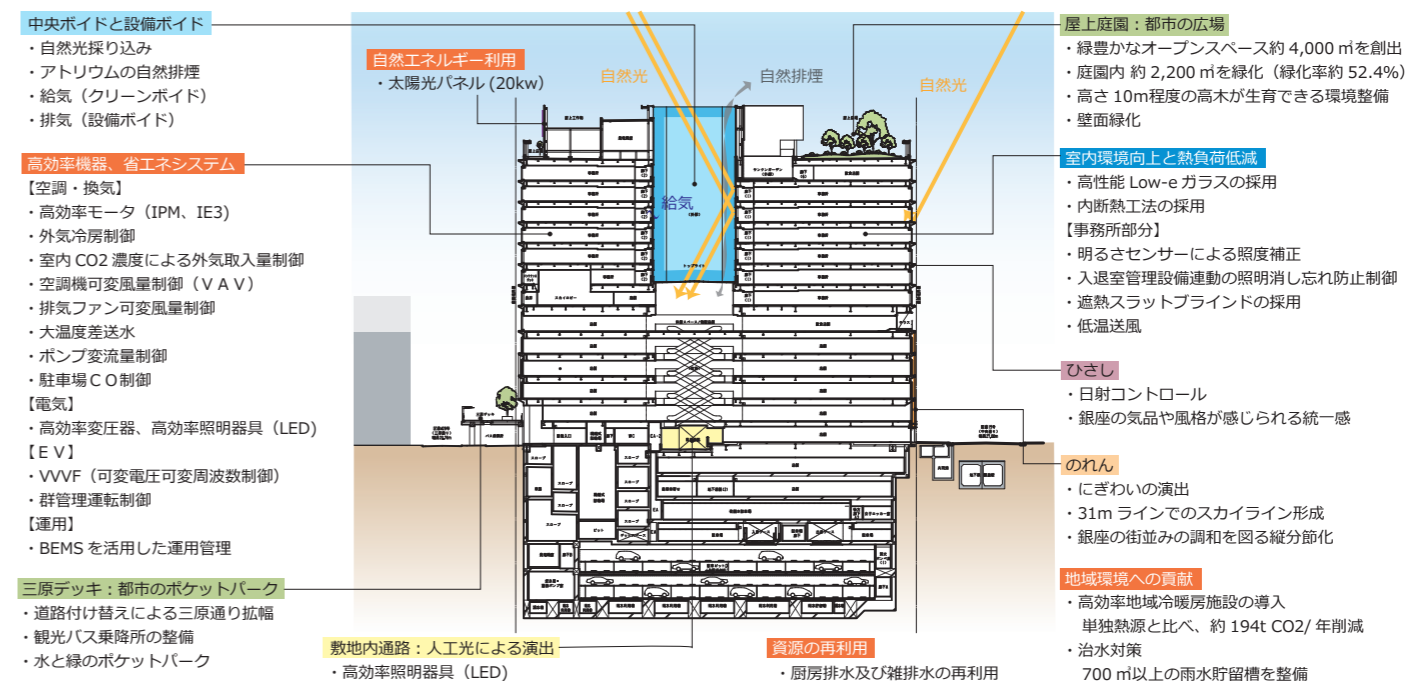
大丸松坂屋百貨店をはじめ14地権者からなる2街区を、一つの敷地として統合する計画は、区道付替や都市再生特別地区という都市計画手法を活用した再開発事業として進められた。設計の最大の課題は、巨大な建築のスケール感を活かしながらも、その建築が建つことで、銀座特有の路地空間による人の流れが途絶えることがないようにすることであった。そのため、付替えられたあづま通りの道路機能を歩車分離した通路として再生、また中央通りから三原通りへ通り抜けられる銀座の新しい路地と言え「銀座パサージュ」を設置、さらに拡張された三原通り側には、観光バス乗降所と地元の要望である「水と緑のストリートパーク」を兼ねる「三原テラス」を作ることで、銀座の街の歩行者ネットワークの拡充をめざした。

屋上には、銀座の街になかった約 4,000㎡の広さに約 2,200㎡の緑化面積をもつ都市型庭園「GINZA SIXガーデン」を設け、地上56mに新たな憩いのスペースを創出している。また、地下鉄銀座駅とGINZA SIXは、地下通路で結ばれ、地下レベルでも歩行者ネットワークを強化している。

### 「ひさし」と「のれん」のデザインシステム 変わるものと変わらないもの

2街区を一体化した銀座随一の広さを持つ敷地であり、そのスケール感を示す象徴として「ひさし」を設けた。建物全周には階ごとに「ひさし」が設置され、どこから見てもGINZA SIXであることがわかる。「ひさし」はステンレスのヘアライン仕上で、周囲の光を映しこみ、時間や天候などの変化を建築に与える。また先端には繊細なLEDライン照明が組込まれ、ファサードの統一性を表現している。高さ31mの、従来の街並みを形成する商業施設には「ひさし」に吊り下げる形で銀座の街のにぎわいを演出するための「のれん」を設けている。

この「のれん」は、建物を垂直方向に分節化して銀座の路地空間につながるスケール感を表現する。「のれん」は、外壁の止水ラインの外に設けられているので、店舗の営業を継続しながら「のれん」の交換が可能なシステムであり、店舗の変更への対応はもとより、時間の経過によるファサードの陳腐化を防ぐことも可能にしてくれる。いつまでも変わらない「ひさし」と時代に呼応して変わる「のれん」が共存するサステナブルなデザインシステムである。



### 省エネに関する工夫

本建物の地下6階には、銀座5・6丁目地区の地域冷暖房施設第2プラントが設けられており、空調熱源としては、この地域冷暖房施設より冷水・温水を受け入れている。空調方式は、商業部分を外調機及びFCU方式、オフィスインテリア部分をAHU(外気処理コイル一体型、単一ダクトVAV)及び外気FFU方式、パレメータは空冷HPマルチ方式としており、テナントの温度設定は、Web経由での操作が可能となっている。また運転制御においては、BEMSによる最適運転を導入しており、高いエネルギー性能を確保し、建物全体でのPALやERR値の削減に取り組んでいる。水資源の有効利用を図るため、厨房排水及び雨水を浄化処理し、トイレ洗浄水として利用する中水処理装置を設置している。



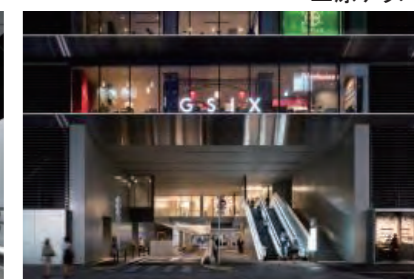
GINZA SIXガーデン



三原テラス



あづま通り地下通路



敷地内通路

### 設計担当者

谷口建築設計研究所 総括：谷口吉生／建築：岡田周也、木藤美和子  
KAJIMA DESIGN 総括：坂本弘之／建築：新村喜幸、竜田英行、小平 仁、岩崎庸浩、丹羽大介、道越勇輔、袖山 暁、野島秀仁、宮前行成、松村治生、小川清則、小澤徹治、小池 健  
構造：黒川泰嗣、瀧 正哉、中村栄作、小田 衛、本間 誠  
電気：廣瀬裕二、横山淳一、鈴木順一 衛生：滝村 徹、太田和好、福田宏之、坂本 健、佐藤拓馬、村川嘉彦、大橋清文、太田浩司、野口康仁  
ランドスケープデザイン：プレイスメディア 担当：宮城俊作、山根喜明、岸 孝

### 主要な採用技術(CASBEE準拠)

- Q2. 2. 耐用性・信頼性 (BCP対応、制震ダンパ)
- Q3. 2. まちなみ・景観への配慮 (スカイラインの統一)
- LR1. 1. 建物外皮の熱負荷抑制 (PAL性能、ひさし、高性能ガラス)
- LR1. 2. 自然エネルギー利用 (自然採光、太陽光発電)
- LR1. 3. 設備システムの高効率化 (ERR性能、地域冷暖房施設)
- LR3. 2. 地域環境への配慮 (屋上緑化、集約駐車場)

建物データ	省エネルギー性能	CASBEE評価
所在地	PAL削減 28 %	Sランク
竣工年	ERR (CASBEE準拠) 45 %	BEE=3.3
敷地面積	LCCO <sub>2</sub> 削減 39 %	2010年度版
延床面積		自己評価
構造		
階数		

